

街道を歩く



美濃街道06小野一町屋一小野一今宿一水門川(高橋)

大垣城

天文4年(1535)年宮川安定が築城(明応9年(1500)竹腰安綱築城の説もある)いずれにしても戦国時代に築かれ、城主は次々と代わった。文禄4年(1595)伊東祐盛の時四層四階の天守閣が造られる。

関ヶ原合戦の時は祐盛の子盛宗が城主、西軍の本陣となり前哨戦が行なわれる。寛永12年(1635)戸田氏鉄が攝津尼崎より10万石領主として移封され、以後11代明治の廃藩まで続く。天守閣は戦災に遭い、昭和34年再建される。



専勝寺(浄土真宗)

保元2年(1157)比叡山の僧了空が巢南町に天台宗の毘沙門堂専勝寺建立が始まり。大永3年(1523)の洪水でここ小野に移る。蓮如上人の頃より各地に浄土真宗の末寺ができ美濃国惣末寺支配頭を勤めた寺。明暦年間(1655-58)に大垣城主戸田氏信から小野城跡を寄進され現在地に移る。明治の震災で倒壊、大正2年再建。

満福寺 阿仏尼の歌碑

明台寺(浄土宗西山禅林寺派)

橋杭笑地蔵、土岐悪五郎(南北朝の頃土岐氏の家臣)で知られる。橋杭笑地蔵については墨俣川の朽ちた橋杭が夜になると光ったので村人が不思議に思い調べると、杭がお地蔵様の形をしていた杭を掘り出し、参議小野篁が地蔵として完成させる。その後 朱雀天皇勅使が関東下向中、村人から地蔵の由来を聞き、**朽ち残る 真砂の下の橋ばしら また道かえて 人渡すなり**



と一首詠んだところその地蔵尊がにっこりと微笑まれという。

津島神社

宿ができた頃から牛頭天王を祀る。明治初期に津島神社と改称。境内に寛政3年(1791)琉球使節が通行の記念に残した石燈籠がある。

墨俣一夜城址(歴史資料館)

信長は墨俣に美濃攻略の拠点築こうとして佐久間長盛、柴田勝家らに命じたが失敗。次に命じられた藤吉郎は蜂須賀小六他との協力を得て木曾の木材を上流で製材、筏に組んで木曾川(長良川)に流し、一夜で砦を造る。永禄9年(1566)9月。信長は翌10年8月には稲葉山城の齊藤龍興を攻略し美濃を手中にする。藤吉郎はこの功績で足輕組頭から墨俣城を預かる武将となる。出世物語の出発点。



さいかち

皂莢之森元八幡社(藤江神明社) 室町の初めここ大井荘は東大寺領 この藤江氏が東大寺鎮守・手向山八幡宮を皂莢の地に勧請し、大井荘18郷の惣社とした

この辺り鎌倉街道が通り宿駅があったことから今宿の名がついた。街道はここから西北、三塚、林、宿築、笠縫へと続いた



結大明神

(祭神天御中主尊、高御産霊尊、神御産尊) ここ結は祭神の"むすび"に由来する。建治3年(1277)阿仏尼が鎌倉への途次この社を詣で和歌一首。

"守れただ契りむすぶの神ならば とけぬ恨みにわれ迷いはさで"

天正3年には信長、17日間祈願し朱印状を下している。

観音堂(本尊十一面観世音菩薩)

照手姫は小栗判官の行方を捜し歩きこの結大明神に7日間祈願したところ会うことができたので観音様を宮守に預ける 観音堂は結大明神境内にあったが河川改修でここに移される。



本陣跡

宿入口に碑があるのみ。本陣役は初代沢井九市郎正賢以後沢井家明治まで13代続く。徳川時代、勅使、大名、朝鮮通信使の休息所となる。

脇本陣

安藤家(一時加納家)勤める現在酒店、門は近くの本正寺に移される。

源義円墓(義朝の妾常磐御前の子、義経の兄、幼名乙若)

養和元年(1181)墨俣川を挟んで西に平重衡を総大将とする7千余騎、東に新宮十郎行家、源義円ら3千騎の源氏源平の大合戦が始ろうとしている時義円は一番乗りしようと西岸へ1人で行くが平盛綱に打たれる。行家も遅れまいと夜討ち掛けるが破れ矢作川まで撤退する。義円公園には義円地蔵が祀られている。

